

E 2 「家庭の文化」についての事例研究  
仙台白百合短大 中森千佳子

目的 結婚を家庭の文化の発生源と考え、結婚により一組の男女が新しく共同生活を始めることで、夫と妻がどのように新しい家庭の文化を形成するかをみた。

方法 各家庭の文化は、各家庭の習慣として個人の習慣に表出すると考え、夫と妻のそれぞれの結婚前の習慣的な行動が結婚後どのように変化したかを聞き取り調査した。対象は三重県上野市に夫婦のみで居住する結婚後1～2年の夫妻である。質問項目は、生活時間の分類を参考に、生理的行動、収入行動、家事行動、社会的・文化的行動で組み立てた。

結果 夫と妻の結婚後の生活習慣の変化は、1、住環境による変化 2、家事労働の担当者による変化 3、社会的・文化的な生活時間の過ごし方による変化 に大別できる。例えば、新住所と勤務先との関係で起床時刻や食事の時間が変わったり、交際の範囲や頻度など結婚による社会的な側面の変化は新しく作り出される習慣であり、個人的な日常生活に関する嗜好や物品の選択などは、夫か妻のどちらかの習慣が残る。特に、家事労働については、担当者のやり方、一般的には妻のやり方が採用される。また、習慣が変わった理由としては、自分の考えや相手に言われてというよりも、結婚したらこのようにするものだというモデルを夫も妻もそれぞれに作りあげて、そのモデルに従っている傾向がみられた。さらに、今回の調査では、個人的な日常生活に関する質問項目が中心であったのでいちがいに結論できないが、「変わった」と答えた項目数に比べて、「変わらない」と答えた項目数が2/3以上あり、結婚後も、夫と妻のそれぞれの個人的な習慣には、ほとんど変化を意識していないことがわかった。